

JETプログラム経験者活躍事例集

(オーストラリア・ニュージーランド)



目次

JETプログラムとは?	3-4
JETプログラム参加者の特徴と経験	5
JETプログラム参加者の職務経験とスキル	6
JETプログラム終了後のサポート	7
JETプログラム経験者の経験談とキャリア	8-17

名前	現勤務先	JETプログラム職種・任用団体	居住国
サマンサ・アネッツ	オーストラリア国立大学(キャンベラ)	元ALT、北海道由仁町	オーストラリア
ナタリア・マニディズ	マイクロソフト(メルボルン)	元ALT、青森県青森市	オーストラリア
マシュー・ウッド	ニュージーランド航空(オークランド)	元ALT、埼玉県熊谷市	ニュージーランド
ティンロク・セイ	H & H Lawyers(シドニー)	元CIR、富山県黒部市	オーストラリア
ブレア・ミルン	Axis Investment Centre(ブリスベン)	元ALT、奈良県橿原市	オーストラリア
アンジェラ・チャン	ビジネス・イノベーション・雇用省(オークランド)	元ALT、和歌山県湯浅町	ニュージーランド
デイビッド・ペニークック	外務貿易省(ウェリントン)	元CIR、大分県天瀬町	ニュージーランド
ナタリー・ガーモニ	国際石油開発帝石株式会社(パース)	元ALT、鹿児島県鹿児島市	オーストラリア

JETAA支部の連絡先(オーストラリア・ニュージーランド)	18
関係連絡先.....	19

表紙(上左から右、下左から右に順番に)アネッツ氏、マニディズ氏、ウッド氏、セイ氏、ミルン氏、チャン氏、ペニークック氏、ガーモニ氏

JETプログラムとは?

JETプログラム(The Japan Exchange and Teaching Programme)は、1987年に開始され、世界最大規模の国際交流推進プログラムの一つとなっています。開始初年度には、オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、アメリカの4か国から848人の方々が参加し、これまでに、2019年7月時点で、世界75か国から70,000人を超える方々が参加しています(次頁参照)。

このプログラムは、日本と他国の人々の異文化理解を深めることを目的とするとともに、外国語・外国文化教育を通じて日本の地域社会の国際化を促進し、さらに、地域社会における文化交流を推進することを目的としています。

外国語指導助手 (ALT)

Assistant Language Teacher

- JETプログラム参加者の90%以上を占める外国語指導助手(ALT)は、主に日本各地の自治体の教育委員会や学校に配属されます。
- ALTは、英語/外国語担当教員(JTE/JTL)の助手として、教材の準備や授業の実施に携わり、英語研究会や運動部活動などの課外活動に参加することもあります。

国際交流員 (CIR)

Coordinator for International Relations

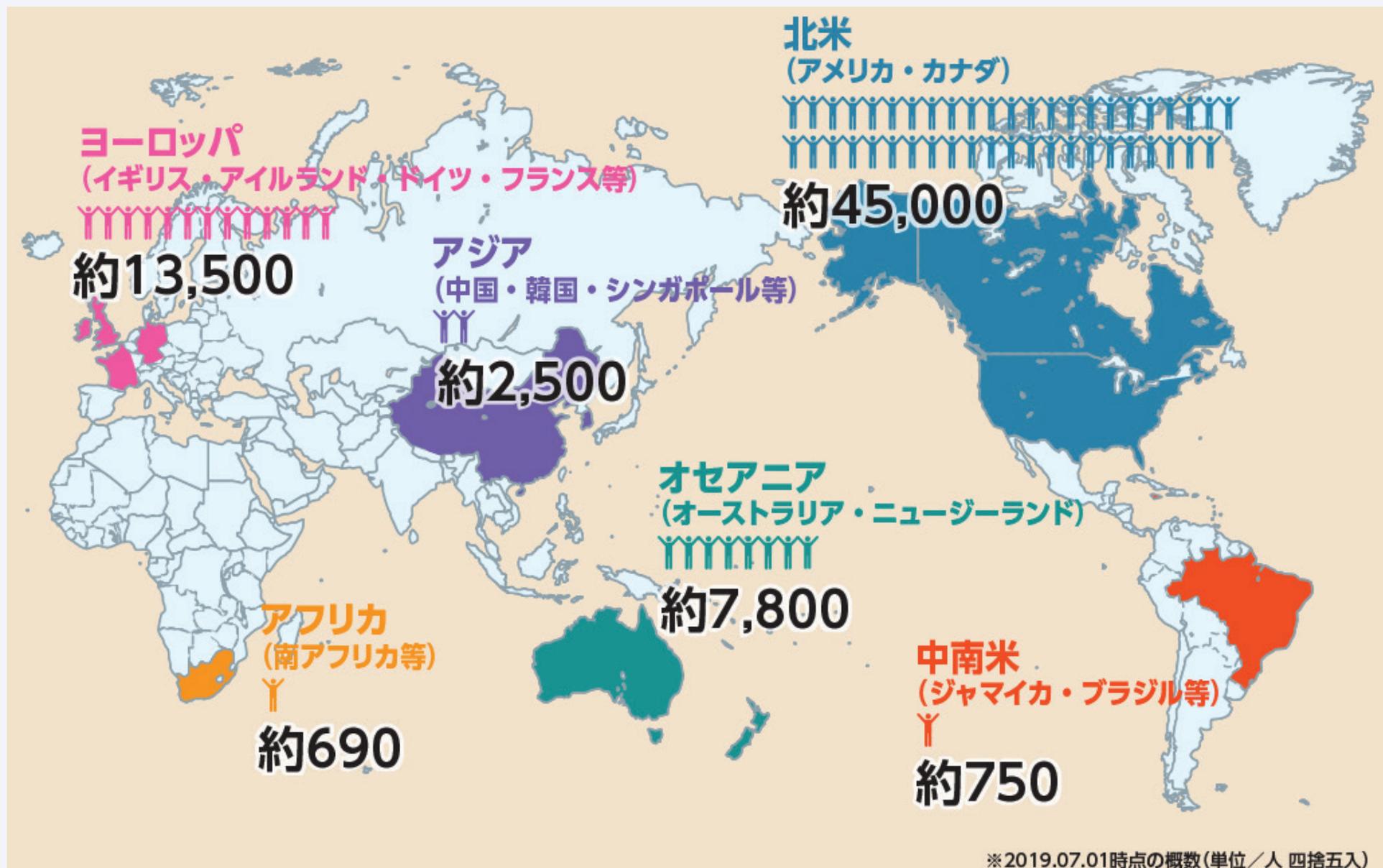
- 国際交流員(CIR)は、日本語能力が高く、自治体にて、主に地域レベルでの国際交流活動に関する職務に従事します。
- CIRとしてのJETプログラム参加者数は、JETプログラム参加者全体の10%以下です。主な任務には、翻訳/通訳、コミュニティまたは学校での異文化理解講座のほか、姉妹都市業務のサポートや国際交流事業の企画立案・実施があります。

スポーツ国際交流員 (SEA)

Sports Exchange Advisor

- スポーツ国際交流員(SEA)は、自治体で活動し、スポーツという世界共通語を通じて地域の国際化を促進します。
- SEAは、スポーツ専門家として、スポーツトレーニングやスポーツ関連事業の企画立案を補助します。

世界75カ国から70,000人を超える参加者



どのような人が参加しているか？

- JETプログラム参加者は、大学を卒業しており、優れた学業成績又は職務経験を有しており、卓越した異文化理解力を備え、日本と広範な関わりを有しています。
- **外国語指導助手 (ALT)** は、多様な分野にわたる学卒者・職務経験者の中から選ばれたモチベーションに富んだ人々で、日本の教育制度に関心があり、子供たちのいる場で働くことに熱心です。
- **国際交流員 (CIR)** は、実用レベルの日本語能力を備えており、国際的な環境の中で日本と世界の相互理解を深めることに関心があります。
- **スポーツ国際交流員 (SEA)** は、優れたスポーツコーチングスキルを備えた熟練したアスリートで、スポーツを通じて異文化理解に貢献することに関心があります。

どのような経験が得られるか？

JETプログラムへの参加により得られる経験は、各参加者それぞれで異なります。以下は、JETプログラム参加者がプログラムで得られる経験の一般的な例です。

- 日本の都市部、地方部もしくは遠隔地に住み、働き、地元住民のように日本を体験するユニークな機会
- 日本での生活と仕事を通じて、個人的および職業的なスキルを獲得し、向上させる
- 国際的な環境で異文化理解を促進するための国際交流活動や国際交流事業に参加する
- 日本および世界中の人々と生涯にわたる友情を築く
- 日本の祭り、伝統、グルメ、観光スポットを享受する

どのようなスキルが得られるか？

各参加者が働く環境はそれぞれ異なり、JETプログラムに参加している間に、例えば、以下のような様々な職業的および個人的なスキルや知識を獲得または向上させることができます。

- 異文化理解とコミュニケーション
- 創造性
- 日本語能力(英語能力も)
- オープンマインド
- 国際的視野
- 自信
- 自己規律
- 時間管理
- 速やかな意思決定
- 批判的思考と問題解決
- 適応性
- イニシアチブをとる
- スピーチ力
- チームワーク

JETプログラム経験者が提供できるスキルは？

JETプログラム経験者は、最低1年間海外で生活し働くというユニークな経験をしているので、オーストラリアとニュージーランドの職場に卓越した異文化理解とコミュニケーションスキルを提供し、刻一刻と変化する環境にも適応できます。彼らは、オーストラリアとニュージーランドの多様な職場に貢献するために必要なスキルと知識を有しています。

JETプログラム経験者の就職先は？

JETプログラムは30年以上の歴史を有します。70,000人を超えるJETプログラム経験者は、上述したように、JETプログラムへの参加を通じて獲得または向上させた様々な職業的および個人的なスキルや知識を存分に活かして、世界中の実に様々なセクターや業界で活躍しています。

JETプログラム終了後のサポート

JETAA (元JET参加者の会) とは?

JETAA (JET Programme Alumni Association、元JET参加者の会) とは、JETプログラムを終了して帰国した卒業生有志の友好を保ち強化するために1989年に結成された親睦団体で、現在は、世界中に50以上の支部があります。JETAAのメンバーは、日本での経験を活かして、母国でJETプログラムのプロモーション活動を行っているほか、JETプログラム経験者のためのサポートネットワークを構築するために協力したり、新規JETプログラム参加者への支援を行っています。JETAAの主な目標は、JETプログラム経験者の日本との好ましい関係を維持し、深めることです。

JETAAの主な活動

JETプログラムのPR

- 大学等での説明会
- キャリアフェアへの参加
- 日本関係イベントでのPR

新規JETプログラム参加者へのサポート

- 日本での勤務・生活についての情報提供
- 出発前オリエンテーションの主催／共催

JETプログラム経験者へのキャリアサポート

- キャリアワークショップやネットワーキングイベントの開催
- 就職機会や就職情報の共有

日本との国際交流のサポート

- 日本との文化交流
- 日本との青少年交流
- 日本との姉妹都市交流

オーストラリアとニュージーランドの 8人のJETプログラム経験者の経験談とキャリア

ブレア・ミルン

元ALT

奈良県橿原市
2011年～2013年

アンジェラ・チャン

元ALT

和歌山県湯浅町
2014年～2017年

デイビッド・ペニークック

元CIR

大分県天瀬町
2000年～2003年

ナタリー・ガームニ

元ALT

鹿児島県鹿児島市
2001年～2003年



サマンサ・アネッツ

元ALT

北海道由仁町
2008年～2011年

ナタリア・マニディズ

元ALT

青森県青森市
2005年～2007年

マシュー・ウッド

元ALT

埼玉県熊谷市
2016年～2018年

ティンロク・セイ

元CIR

富山県黒部市
2011年～2012年

サマンサ・アネッツ



プロフィール

- オーストラリア国立大学(オーストラリア・キャンベラ) 副総長の上級アシスタント
- JETAAキャンベラ支部会長
- オーストラリア・シドニー出身
- シドニー大学でアジア研究を専攻
- 北海道由仁町でALTとして勤務(2008年7月～2011年7月)

幼少期に家族が定期的にホームステイを受け入れていた日本人交換留学生との交流を通じて、日本への関心を高めた。

15歳の時、地元(キャンベルタウン)の姉妹都市である埼玉県越谷市への2週間の交換プログラムに参加し、越谷市役所でJETプログラム参加者に会ったことがきっかけで、JETプログラムに興味を持つようになった。

JETプログラム参加前は、会計事務所で受付として勤務。

JETプログラムでの経験

2008年7月から人口約5,000人の北海道由仁町でALTとしてJETプログラムに参加し、幼稚園2園、小学校3校、中学校2校で英語を教えた。また、町の教育委員会で軽度の翻訳作業を手伝うこともあった。

授業以外でも積極的に生徒と関わり、いくつかの学校で英語クラブを始めたり、文通や英語フレーズ、文化的な写真、国際的な記事の掲示板への掲示を通じて、英語で生徒と関わりを持っていた。

仕事以外では、地域コミュニティで全年齢を対象とする英会話グループを設立したり、地元の太鼓や書道のグループにも参加した。これらの交流を通じて、地元の人々がオーストラリアの文化について学ぶと同時に、自分自身が日本の文化について学ぶという相互国際化の輪を作った。



「私はJETプログラム参加前に日本と日本文化を経験したことがあります。それでも私にとってJETプログラムは非常に目を見張るような経験でした。それはまた、私を与えるものが多ければ多いほど、得られるものが多いというものでもありました。」

JETプログラム終了後の人生と現在の役割

JETプログラムで当時最長の3年間の任用期間を終了した後、東京に移り、代々木インターナショナルスクールで主任教師として4年間勤務した。

東京での勤務後、カナダに移り、ワーキングホリデービザで1年間在住した。

オーストラリアに戻った後、在オーストラリア日本国大使館(キャンベラ)で、大使館の秘書業務を処理する専務職員として勤務し、その後、公使の秘書として勤務した。この役職では、2人の高官のスケジュール管理に従事し、外務貿易省の代表者と連絡を取ったり、大規模なイベント計画にも携わった。

現在、オーストラリア国立大学の副総長の上級アシスタントとして、副総長の重要なスケジュール管理に従事している。

「多くを与えてくれた」JETプログラムに恩返しするために、JETAAキャンベラ支部の会長としても活動している。



JETプログラムが与えた影響

彼女は、JETプログラムでの経験を「大人になって最も影響力のある出会い」と要約する。彼女にとってJETプログラムは全体として目を見張るような人生を変える経験であり、その後のキャリアや人生の選択を決定づけるものだった。

JETプログラムを通じて獲得した専門的なスキルには、その場での意思決定、斬新な思考、創造性のスキルが含まれ、個人的なスキルには、オープンマインド、忍耐、自信、そしてバランスのとれた世界観の獲得が含まれる。これらはすべて、プログラムに参加して以来の彼女のキャリアを導いてきたスキルとなった。

JETプログラムを通じて他国との出会いを楽しんだ。そして、世界中からのJETプログラム参加者に会うことで、彼女の世界観が変わり、ワーキングホリデービザでカナダに移るという決断をした。

JETプログラム終了後も教育界で働くという決定は、JETプログラム参加者として教育に携わった経験と由仁町で生涯学習を支援し、それによって直接的に効果が生まれることを実感した経験から導かれた。



ナタリア・マニディズ



「JETプログラムでの経験から得た日本と日本文化、そして日本語への理解は、多くの点で私の人生を確実に変えました。」

プロフィール

- ・ マイクロソフト(オーストラリア・メルボルン)のカスタマーサクセスマネージャー
- ・ オーストラリア・シドニー出身
- ・ シドニー工科大学で経済学と日本語を専攻
- ・ 青森県青森市でALTとして勤務(2005年7月~2007年7月)

7年生(中学1年生)から日本語を学び始め、高校卒業前にラゴ国際交流プログラムで6週間日本でホームステイした経験がある。

大学2年生の時、北海道教育大学函館校での1年間の交換留学を終えた後、再び日本に戻りたいと強く思い、JETプログラムへの参加が最良の選択肢であると判断した。

JETプログラムでの経験

青森県青森市でALTとして勤務した。主に高校に勤務し、商業高校や県立の盲学校でも授業を行った。勤務した学校の全ての教師は、新しいことを試すことに理解を示し、授業の計画と実施において広範な裁量を与えてくれた。

青森滞在中には、青森のJET参加者のALTのグループ「エベレスト・オブ・アップル」が立ち上げたボランティアグループに参加し、募金イベントを実施し、発展途上国の子供たちの教育を支援した。彼女はこのボランティアグループの役員となり、JETプログラムの2年目には会長になった。

仕事以外では、青森の地理と気候を最大限に活用し、毎年冬には八甲田山でのスノーボードに多くの時間を割いた。



JETプログラム終了後の人生と現在の役割

青森で2年間過ごした後、オーストラリアに帰国する時が来たと感じ、シドニーに戻った。オーストラリア帰国後は、在シドニー日本国総領事館で、1年間、経済担当のアシスタントとして勤務した。

総領事館での勤務後、Oxfam Australiaに勤務し、事務管理とコミュニケーション、およびアボリジニとトレス海峡諸島民の女性のための能力開発プログラムの調整の2つの役割を果たした。

その後、東京に移り、翻訳サービス会社のGengoに勤務し、後にサンフランシスコのオフィスでも勤務した。あわせて2年半勤務した。

サンフランシスコで過ごした後、メルボルンに移り、人々がデジタル製品を売買するためのオンラインマーケットプレイスコミュニティを運営する会社であるEnvatoに勤務した。Envatoでは、主に外部とのやりとりとプロセスの改善を担った。

2019年末、メルボルンのマイクロソフトでカスタマーサクセスマネージャーとしての現在の役職に就き、様々なバックグラウンドを持つ人々の中で顧客をサポートするために働いている。



JETプログラムが与えた影響

彼女はJETプログラム参加中に現在の夫に出会い、日本との関係をさらに強固なものにした。彼女は現在、オーストラリアと日本の両方で生活を送っている。

JETプログラムを通じて獲得した専門的なスキルには、異文化コミュニケーションと異文化理解、教育能力と人前で話すスキル、ネットワーキングスキルが含まれ、個人的なスキルには、独立性、柔軟性、適応性、回復力のスキルの獲得が含まれる。彼女がJETプログラムで獲得した又は向上させたスキルはすべて、特にOxfam Australia やマイクロソフトといったグローバル企業において、彼女のキャリアを助けてきた重要なスキルである。

「エベレスト・オブ・アップル」に携わる中で得た経験により、国際関係への関心を高め、在シドニー日本国総領事館とOxfam Australiaでの勤務に駆り立てられた。

彼女は、JETプログラムとそのサポートシステムが、海外への転居に対する恐怖を解消したことを評価している。また、それはサンフランシスコへの移住に大いに役立った。

彼女は、今日でも、JETプログラムで築いた永続的な友情と国際的なネットワークを大切にしている。



マシュー・ウッド



プロフィール

- ・ ニュージーランド航空(ニュージーランド・オークランド)の上級システムアナリスト
- ・ JETAAオークランド支部ウェブマスター
- ・ ニュージーランド・オークランド出身
- ・ オークランド大学で生物学を専攻
- ・ 埼玉県熊谷市でALTとして勤務(2016年7月～2018年7月)

高校生の時に、海外で最大の日系コミュニティがあるブラジルでの交流で、日本文化に少し触れた。

JETプログラム参加前は、ニュージーランドでデータアナリストやIT技術者として働いていた。ブラジルでの経験を他国でも再現したいと考え、JETプログラムに参加することにした。

JETプログラムでの経験

2016年7月から埼玉県熊谷市で2年間ALTとして勤務した。人口約20万人の熊谷市で、主に2つの学校に勤務し、年2回は隣接する市の特別支援学校でも勤務した。学校では、日系ブラジル人の生徒たちに教える際に、ポルトガル語のスキルを活用してしっかりとサポートした。

一つの学校では、ラグビークラブの生徒たちと一緒にトレーニングすることを志願し、生徒たちの指導者として活躍した。



熊谷市と熊谷市国際交流協会が主催する英会話イベントにも参加した。また、熊谷市とインバーカーギル(ニュージーランド)の姉妹都市イベントに参加し、両都市間の学生交流の準備を支援した。

仕事以外では、地元の人々と社会的に交流し、地域のイベントに参加した。

「日本ででの経験は全体的に最高に素晴らしかった。私は自分がいた場所、一緒にいた人々をととても愛しています。一緒に働いていた先生や地元の人たちと、他の誰よりも多くの時間を過ごしました。それは最高に素晴らしかった。私はそれが大好きでした。」

JETプログラム終了後の人生と現在の役割

JETプログラムでの2年間を終えた後、テクノロジー分野でのキャリアを継続するためにニュージーランドに帰国することとした。

ニュージーランド帰国後、2つの組織でデータアナリストとして勤務した。

現在、ニュージーランド航空の上級システムアナリストとして、多くの内部アプリケーションを有する航空会社の技術専門家として勤務している。機会があれば、日本で、テクノロジー分野でのキャリアを続けたいと思っている。

JETプログラムに恩返しをするために、JETAAオークランド支部のウェブマスターとして、JETプログラムへの参加に興味があるかもしれない人々を惹き付ける方法を常に考えている。



JETプログラムが与えた影響



JETプログラムが彼の人生のすべての分野にプラスの影響を与えたと信じている。例えば、JETプログラムのおかげで学ぶことに貪欲になり、彼の人生で何を成し遂げたいか認識するに至った。JETプログラムでの時間は、他の人を助けたいという彼の願望を強固にするのにも役立った。

JETプログラムでの経験は、ITでのキャリアに直接は貢献していないが、現在の状況や環境に適応する能力を高め、学習する能力を強化した。

ニュージーランドから離れてまったく異なる分野で働く機会を彼に提供したJETプログラムが、彼のITキャリアとその後の人生のステップに影響を与えたと認識している。

JETプログラムを通じて獲得したスキルには、コミュニケーション、細部への注意、時間厳守のスキルが含まれる。問題解決に深く関わっている現在の業務では、JETプログラムで得た細部への注意のスキルが役に立っている。

また、日本語のスキルと新しい文化を学ぶ能力を向上させた。

ティンロク・セイ



プロフィール

- H & H Lawyers (オーストラリア・シドニー)のシニアアソシエイト
- オーストラリア・シドニー出身
- ニューサウスウェールズ大学で法学士/文学士を修了
- 富山県黒部市でCIRとして勤務(2011年7月~2012年7月)

幼少期に日本に住んでいたことがあり、日本を離れた後も日本に強い関心を持ち、日本にいた時の友達と連絡を取っていた。

大学卒業後に勤務していたKPMGでは、従業員にサバティカル休暇を提供しており、海外に行く機会を考えていた彼は、職業能力を開発でき当時の個人的な興味とも合致するJETプログラムに応募することを決めた。

JETプログラムでの経験



2011年7月から人口約4万人の富山県黒部市でCIRとして1年間勤務した。

前任者からの引き継ぎで、勤務当初は英語教育に重点を置いていたが、職場の方々と相談した結果、地元のケーブルテレビで自分の番組を放送したり、地元住民に対してオーストラリアの映画を上映する屋外映画文化イベントを開催したりするなど、英語教育以外のプロジェクトなどに取り組む機会を得た。

また、毎週幼稚園や保育園を訪問し、オーストラリアについてのプレゼンテーションを行ったり、地元の人々と仕事とプライベートの両方で交流して、オーストラリアの文化を垣間見る機会を与えた。

仕事以外では、日本の田舎のライフスタイルに溶け込み、地域のおいしいお米や水、温泉を享受した。

「私の経験からすると、JETプログラムは職業的および個人的な成長のための本当に素晴らしい経験でした。それは文化と言語の面で、本当に参加者の目を別の世界に開きます。JETプログラムで働いている間、参加者は様々な人々に会うことができ、そうした人たちとつながりを作り、そのようなつながりのいくつかはうまくいけば続けることができるでしょう。私はJETプログラムに参加した時期をとっても思い入れを込めて振り返ることがあります。」

JETプログラム終了後の人生と現在の役割

日本での滞在期間を延長したいと思ったが、サバティカル休暇の期限があったため、JETプログラムに1年間参加した後、シドニーに戻った。

シドニーに戻った後、KPMGの元のポストに就いた。その1年後、シドニーのDeloitte Touche Tohmatsuで働き始め、特に日本法人顧客へのアドバイザリーサービスの提供に注力した。

現在、アジア及びアジア系オーストラリア人の顧客にサービスを提供することに焦点を当てている法律事務所であるH&H Lawyersのシニアアソシエイトとして勤務している。顧客は主に日系機関で、具体的には、政府、多国籍企業、地元の中小企業などである。



JETプログラムが与えた影響

JETプログラムでの経験は、彼の日本と日本文化への関心を確固としたものとしただけでなく、家族のアイデンティティの大部分が日本と結びついているため、家族のルーツを理解する機会を得るものだった。

JETプログラムは、日本や日本人についてだけでなく、プログラムに参加している間に会った人々や他の文化についての彼の既存の見解や考え方を刺激する経験であり、学習プロセスだった。

JETプログラムへの参加で獲得した専門的及び個人的なスキルには、人前で話すこと、率先して行動することにおけるリーダーシップ、および独立性が含まれていた。

現在、主にアジアのクライアント、特に日本のクライアントにサービスを提供する役割を担っている。そのため、JETプログラムで学んだ言語スキルや日本のビジネス文化と親切なもてなしに関する知識は、現在の業務を行う上で非常に役立っている。



日本での生活と仕事の経験は、日本とオーストラリアの生活で学んだことをどのように活用することができるかを発見する機会を与え、それは彼の業務推進にも活かされている。

また、JETプログラムで日本に住み、働いた経験があることにより、彼のコミュニケーションと日本の顧客へのアプローチに際して信頼と自信を得られていると信じている。

ブレア・ミルン



「毎日が新しい経験と新しい冒険だったので、JETプログラムは信じられないほどエキサイティングでやりがいがありました。」

プロフィール

- Axis Investment Centre (オーストラリア・ブリスベン) のファイナンシャルプランナー
- スコットランド・エディンバラ出身
- グラスゴー大学で経済学を専攻
- 奈良県橿原市でALTとして勤務 (2011年7月～2013年7月)

スコットランドで経済学を学んでいる時、日本の急速な経済発展に関心を持つようになった。

大学時代、スコットランドと米国でサマーキャンプカウンセラー、ユースワーカー、舞台芸術の教師として働き、学生と一緒に働くことに興味を持った。

JETプログラム参加前は、スコットランド王立銀行でも勤務した。

JETプログラム終了後の人生と現在の役割

長い目で見て最終的には英語圏の国で働きたいと考えていたため、JETプログラムに2年間携わった後、妻の故郷であるシドニーに移った。

2016年からファイナンシャルプランナーとして勤務している。現在まで、ANZとCitibankの2つの銀行と資産マネジメント会社のYellow Brick Roadで勤務してきた。

2019年後半、ライフスタイルの変化を希望し、家族と一緒にブリスベンに移り、ANZで勤務した。

2020年半ばから、クイーンズランド州に本拠を置く独立系資産アドバイザー会社であるAxis Investment Centreでファイナンシャルプランナーとして勤務している。転職は、スキルとキャリアを発展させることで、彼に自律性と自由をもたらしている。

オーストラリアでの生活に慣れるため、そして、日本での時間を思い出す手段として、シドニーに住んでいたときにJETAAニューサウスウェールズ支部の活動に積極的に参加した。COVID-19による規制の解除後は、JETAAクイーンズランド支部の活動に参加することを楽しみにしている。

また、忙しい仕事の合間を縫って、Parkrun AustraliaとSurf Life Saving Australiaでボランティア活動を行っている。



JETプログラムでの経験



2011年7月から人口約12万人の奈良県橿原市でALTとして勤務した。

主に市内の普通高校に勤務し、彼のスコットランドで培った文化を共有したり、実りある議論や授業を行う機会が多くあった。

市内で過ごした時間のハイライトには、県のスピーチコンテストに向けて準備を進める生徒を指導した時間や、養護施設で彼のスコットランドで培った文化を共有し、英語を教えるというボランティア活動が含まれる。

橿原市で出会った地元の人々と連絡を取り合い、橿原市の人々と英語圏の世界との間の架け橋であり続けている。

JETプログラム参加時に、オーストラリアからのALT仲間である妻に出会い、プロポーズし、結婚した。

JETプログラムが与えた影響



JETプログラムが人生にもたらした最大の変化は、彼のオーストラリアへの移住である。彼は、JETプログラム参加後、英国に戻るつもりだったが、現在は妻と産まれたばかりの娘と一緒にオーストラリアに住んでいる。

JETプログラムへの参加を通じて獲得した専門的なスキルは、プレゼンテーションスキル、行間を読むスキル、チャンスを活かすスキルである。これらは、ファイナンシャルプランナーとしてのキャリアに不可欠なスキルである。また、JETプログラムへの参加により得ることができた個人的なスキルは、コミュニケーション能力、計画・実行力、および日本語スキルである。

同僚やクライアントとのコミュニケーション方法について常に肯定的なフィードバックを受けているが、これは、彼が日本で高校生を教えることから得たスキルと経験によるものである。

アンジェラ・チャン



「JETプログラムでの経験は私の人生を変えたと言えます。」

プロフィール

- ビジネス・イノベーション・雇用省(ニュージーランド・オークランド)の上級入国審査官
- JETAAオークランド支部の元副会長
- ニュージーランド・オークランド出身
- オークランド大学で日本語、言語学、言語教育を専攻
- 和歌山県湯浅町でALTとして勤務(2014年8月～2017年8月)

高校生の時に日本語を学び始め、大学では、上智大学に6か月間交換留学した。

JETプログラムについては、大学に入る前から知っており、興味を持っていた。

JETプログラム参加前、1年以上カスタマーサービスに従事した。

JETプログラムでの経験



2014年8月から2017年8月までの3年間、和歌山県湯浅町のALTとして勤務した。

人口約11,000人の町で、3つの小学校を通じ、計約750人の児童に授業を行い、カリキュラム、授業計画、教材作成にも携わった。また、湯浅町役場で公文書や出版物の翻訳、編集、校正を手伝うこともしばしばあった。

学校の授業以外では、地元の太鼓チームに加わり、日本での多くの時間を太鼓の練習に費やした。和太鼓はニュージーランド帰国後も今日まで続く趣味となった。さらに、余暇と休日を利用して、日本全国の様々な地域を旅行した。

ニュージーランドに帰国する前の年、クリア東京本部が提供するインターンシッププログラムに参加し、大阪の外国人居住者支援サービス会社で短期インターンシップを行った。1週間のインターンシップ中は、翻訳業務を行い、会社の同僚と一緒に大学との会議にも出席した。

JETプログラム終了後の人生と現在の役割

3年間のJETプログラム終了後、クリア東京本部が提供するインターンシッププログラムで得た経験を踏まえて検討した結果、最終的にニュージーランドに戻ってキャリアを開始することを決定した。

ニュージーランド帰国3か月後、法務省で裁判所書記官として働き始め、関係者、弁護士、政府機関と連絡を取りながら、裁判所の文書処理を担った。また、聴聞中の法廷運営の管理も担当した。

現在、ビジネス・イノベーション・雇用省の上級入国管理官として、ニュージーランドの移民政策の成果を上げるため、ビザ申請の処理と決定を担当している。

日本から帰国後、JETAAオークランド支部に加入し、最初の1年間はウェブマスターとして、2019年から2020年にかけては副会長として活躍した。現在は、一般会員として、JETAAオークランド支部の会議やイベントを積極的に手伝っている。



JETプログラムが与えた影響

もしJETプログラムに参加していなかったら、ニュージーランドで教師になるという全く異なるキャリアを歩んだかもしれない。しかし、JETプログラムで教師としての経験を積んだ彼女は、教えることは自分のキャリアではないことに気づき、代わりに、政府で働くことに興味を持ち、それが現在のキャリアパスに通じている。

最終的にニュージーランドに戻ることを選択したが、ニュージーランドに戻るという決定を作った明確な理由を提供してくれた日本でのインターンシッププログラムに参加できたことに感謝している。

JETプログラムへの参加を通じて獲得したスキルとして、コミュニケーション、時間管理、適応力、自信を挙げている。これらは全て、JETプログラム終了後に就いた2つの職場でのキャリアに必要なスキルだった。



また、JETプログラムで日本に住み、働いた経験を通じて、他の国の文化を理解する経験とスキルを得ることができたと信じている。これらは、現在、入国管理官としての役割を果たす上で、移民希望者とのコミュニケーションを円滑に進める基礎となっている。

デイビッド・ペニークック



「JETプログラムは私のキャリアの形成に大きな影響を与えたと思います。」

プロフィール

- ・ 外務貿易省(ニュージーランド・ウェリントン)の政策担当官
- ・ ニュージーランド・オークランド出身
- ・ オークランド大学で日本語および国際ビジネスを専攻
- ・ 大分県天瀬町でCIRとして勤務(2000年7月~2003年6月)

日本へ興味を持つようになったのは、高校生の時に、家族が自身の高校の姉妹校から日本人留学生のホームステイを受け入れたことがきっかけである。最初にJETプログラムについて知ったのは、その姉妹校の教師を通してである。

大学在学中に広島大学で1年間交換留学をし、大学卒業後は再び日本に行きたいと考えていた。

JETプログラム参加前、台湾で約4か月間、子供たちに英語を教えていた。

JETプログラムでの経験



2000年7月から当時人口約7,000人の大分県天瀬町のCIRとして勤務した。

最初は仕事量が少なかったが、地元の人々との交流に多くの時間を費やし、できるだけ多くの仕事の機会を得るようにした。

最終的には、地元の人々の国際的な意識を高めるために、保育園、学校、老人ホームを訪問したり、天瀬町とブラー地区(ニュージーランド)との間の旧姉妹都市関係業務に従事したり、町のウェブサイト上で観光とイベントに関するコンテンツの管理を行ったほか、町のお祭りの準備も支援した。

業務時間後は、コミュニティに溶け込み、地元のスポーツチームに参加したりと、ニュージーランドの文化大使としての活動を続けた。

JETプログラムでの最大の思い出としては、旅行と友人を挙げている。友人は、他のJET参加者と地域住民の両方である。JETプログラム参加時に、天瀬町の住民であった妻に出会った。

JETプログラム終了後の人生と現在の役割

JETプログラムで当時の最長の任用期間であった3年間を終えた後も、日本に留まり別の経験をしたいと考え、東京の在日ニュージーランド大使館でビザ担当官として勤務した。その後昇進し上級ビザ担当官として働いた期間においても、ニュージーランドへのビザ申請の処理業務を担い、また、移民に関する会議やイベントでニュージーランドの代表として勤めた。

東京で5年半過ごした後、ニュージーランドに戻り、オークランド国際空港のニュージーランド入国管理局で国境入国管理官として勤務し、ニュージーランドに渡航する乗客のプロファイリングを担当し、緊急事態時のニュージーランド人の本国送還の支援も行った。

長女の誕生後、労働時間を安定させるため、ニュージーランド最大の企業で世界の乳製品市場で大きな役割を担うフォンテラ協同組合グループで働き始めた。フォンテラにいた4年間で、6つの役割を果たし、主に北アジアチームにおいて日本市場業務に従事した。

フォンテラに4年間在籍した後、在ニュージーランド日本国大使館に勤務し、奨学金プログラムや文化イベントに従事した。

現在、ニュージーランド外務貿易省の政策担当官として、これまで日本、ナウル、ソロモン諸島、東ティモールとニュージーランドとの外交関係に携わってきた。



JETプログラムが与えた影響



JETプログラム参加前は、パイロットとしての将来のキャリアを心に描いていたが、JETプログラム経験後、真の情熱が国際関係にあることに気づいた。彼は、現在のキャリアの軌跡をもたらした決定に影響を与えたのはJETプログラムであると実感している。

JETプログラムを通じて得たスキルとして、日本語、異文化コミュニケーション、適応力、プレッシャーの管理、回復力を挙げている。個人的なものとしては、よりオープンマインドになったことを挙げている。また、JETプログラムは、自分自身が望んでいたキャリアパスについて深く考える機会を彼に与えた。

JETプログラムで得た文化を理解するスキルは、彼のキャリアパスに大きく貢献してきている。というのは、彼のキャリアパスにおけるすべての役割において、国際的な素養が必要とされ、また多様な文化的背景を有する人々と協力することが求められてきたからである。

ナタリー・ガーマニ



プロフィール

- 国際石油開発帝石株式会社(オーストラリア・パース)の企業社会責任アドバイザー
- JETAA西オーストラリア支部の元幹事
- オーストラリア・パース出身
- カーティン大学(パース)で会計とアジア(日本語)研究を専攻
- 鹿児島県鹿児島市でALTとして勤務(2001年8月~2003年8月)

小学校の最終学年から日本語を学び始め、中学・高校と大学でも日本語を勉強し続けた。

大学の最後の年にJETプログラムについて知り、応募することに決めた。

JETプログラム参加前は、不動産コンサルティング会社と国際会計事務所での勤務経験がある。

JETプログラムでの経験



鹿児島県鹿児島市でALTとして勤務した。同市で採用されていた他のALT9人とともに、市内の4つの中学校と高校を行き来し、各学校の日本人の英語教師と協力して、生徒の中には一カ月に1度しか会えない生徒もいたので、生徒にとって興味深い授業を行った。

また、夏休み期間は、小学生のためにサマースクールで教えたり、割り当てられた学校に加えて、いくつかの地域コミュニティでも授業を行った。さらに、市内の国際センターで開催されたフォーラムで講演するよう招待され、オーストラリアの文化についてプレゼンテーションを行った。

鹿児島滞在中に、オーストラリアと日本の関係に関連する行事に招待された。これには、駐日オーストラリア大使が鹿児島市内を訪れた際のディナーレセプションも含まれる。仕事以外では、旅行を楽しみ、奄美大島、屋久島、種子島などオーストラリアからの旅行が難しい遠隔地に旅行した。

「JETプログラムの参加者であることは、ユニークで特権的な経験であり、今日の私を形づくるものでもある。」

JETプログラム終了後の人生と現在の役割

2年間のJETプログラム終了後、パースに戻り、在パース日本国総領事館で総領事の上席秘書を務めるまで、様々な組織で業務を担った。

在パース日本国総領事館では、総領事のアポイントメントと情報通信関係業務を管理し、オーストラリア連邦政府および州政府の様々な部署と連絡を取った。また、大規模イベント、特に日豪交流年に関連するイベントの開催にも深く関わった。

2007年に、日本最大の石油およびガスの探鉱・生産会社である国際石油開発帝石株式会社に働き始めた。現在、国際石油開発帝石株式会社の企業社会責任アドバイザーとして、同社のオーストラリアでのコミュニティエンゲージメントと投資活動に関与している。また、同社の活動が環境的かつ社会的に持続可能性のあるものであることを示す報告書を作成する東京本社を支援している。

オーストラリア帰国以降、JETAA西オーストラリア支部の長年の幹部メンバーであり、数年間、同支部の幹事を務めてきており、2017年にJETAA西オーストラリア支部が日本の外務大臣表彰を受けた世界初のJETAA支部となったときも幹部メンバーの1人だった。



JETプログラムが与えた影響

JETプログラムでの経験が、国際関係などの他の仕事の機会や関心のある分野への視野を広げ、日本に関連する分野で働き続けたいという願望を固めたと信じている。また、JETプログラムの経験が、彼女の成人期への移行を支援するとともに、フルタイムのキャリアを積む準備をするための自信と自立を育む機会を提供したと評価している。



JETプログラムでの経験により獲得した専門的なスキルには、教えること、人間関係の構築、プレゼンテーションのスキルが含まれ、個人的なスキルには、独立性、自己規律、自信、成人期への移行に重要なスキルが含まれる。

JETプログラムでの経験は、在パース日本国総領事館での業務と国際石油開発帝石株式会社での業務に不可欠な日本の労働文化、習慣、ビジネスプロセスに関する知識と理解をもたらした。

JETプログラム経験者からの意欲的な参加者へのメッセージ

基本的に、失うものではなく、得るものしかありません。あなたが人生やキャリアの意味を見つける機会を探しているなら、JETプログラムはそのチケットです。世界中のグローバルな隣人の情報が飽和している現在の世界で、JETプログラムが提供する経験は、文化交流の最前線にあなたを置くという点で比類のないものです。

サマンサ・アネッツ



JETプログラムは、新しい文化を体験し、そして働く機会を提供する上手く組み立てられたプログラムです。日本国内で確立された学校制度、JETプログラム参加者ネットワーク、そしてより広いコミュニティのネットワークは、あなたのスキルを開発し育成する多くの機会があることを意味します。ほとんどのものと同様に、あなたが与えるものはあなたが大部分受け取ることができるものになるのです。数年前にJETプログラムから戻ってきた私は、学校生活だけでなくより広いコミュニティの両方に貢献することができた機会に感謝しています。

ブレア・ミルン



もし、あなたが日本に興味があり、異文化での生活を体験したいと考え、世界中の人と出会うことにワクワクし、自分の言語、国、文化について他の人に教えることに前向きであれば、JETプログラムは素晴らしい機会だと思います。...そして私はあなたがJETプログラムに応募することを心からお勧めします!

ナタリア・マニディズ



期待できることに心を開いてください。多くのJETプログラム参加者がオンラインで経験を共有していますが、あなたの経験はあなたの任地によって大きく異なる場合があります。あなたの任地について調べ、その任地を探索して体験してください!

アンジェラ・チャン

JETプログラムは、あなたの心をより世界に開放するのに非常に有益な経験です。人生は一度きりで、JETプログラムとそれが提供する体験はとてもユニークなものなので、私は常に誰にでも、そして全ての人にJETプログラムをお勧めしています。自分の文化とは大きく異なる文化に身を置く機会となりますが、JETプログラム関係機関の支援を受けて、あらゆる瞬間において最大限に学ぶことができます。

マシュー・ウッド



JETプログラムは、別の文化、他の世界観、そして自分自身について学ぶ素晴らしい機会だと思います。JETプログラムは色々な形であなたを試しますが、前向きな姿勢で、あなたは日本でのこれまでとは非常に異なる生活を楽しみ、日本及び他国から生涯にわたる友人を得るでしょう。

デイビッド・ペニーック



(JETプログラムに)参加しよう!多文化主義に関わる仕事や日本文化に興味があるなら、JETプログラム(CIR)は、貴重な経験を得て学ぶのに最適な環境です。あなたが体験できることは、他の場所で体験できそうになく、あなたのキャリアの次のステージに向かわせるプラットフォームを提供します。

ティンロク・セイ



JETプログラムはユニークで成長を促す人生経験です。それは若い大学卒業生に、旅行したり、豊かで多様な文化に没頭する自由も与えながら、尊敬され十分な給料を得られる仕事のために海外で働き住む機会を与えます。

同時に、自分自身の人生経験をもとに、非公式の大使として、学生や自分が住むコミュニティとのより広い文化交流に参加することができます。

JETプログラム参加者は、日本人だけでなく世界中のJET仲間と生涯の友人を作り、JETプログラム終了後も、JETAAを通じて、世界中のどこにいても、日本やJETプログラムとの関係を継続することができます。

ナタリー・ガーモニ

JETAA支部の連絡先 (オーストラリア・ニュージーランド)

JETAA支部 (オーストラリア・ニュージーランド)

オーストラリア及びニュージーランドでは、次の8支部が活動しています。各支部は、クエアズランド及び日本国大使館または日本国総領事館等と協力関係にあり、元JET参加者のキャリア支援を含めたJETプログラム終了後のサポートにも取り組んでいます。JETプログラム経験者のキャリア支援を含めてご質問等がございましたら、以下のJETAA支部の代表連絡先にお問い合わせください。

JETAA支部の連絡先 (キャリアサポート)

ニューサウスウェールズ支部 Email: president@jetaansw.org Web: www.jetaansw.org	クイーンズランド支部 Email: president@jetaaqld.org
ビクトリア・タスマニア・南オーストラリア支部 Email: jetaavictassa123@gmail.com Web: www.victassa.jetaa.org.au	ウェリントン支部 Email: jetaawellington@gmail.com Web: www.jetaawgtn.org.nz
西オーストラリア支部 Email: president@jetaawa.com Web: www.jetaawa.com	サウスアイランド支部 Email: southisland@jetaa.nz
キャンベラ支部 Email: president@jetaacanberra.org Web: www.jetaacanberra.org	オークランド支部 Email: aucklandjetaa@gmail.com Web: www.aucklandjetaa.com

関係連絡先

在オーストラリア日本国大使館 Web: www.au.emb-japan.go.jp/itpr_en/education_jet_en.html Tel: +61 2 6273 3244 Email: jet@cb.mofa.go.jp	在ニュージーランド日本国大使館 Web: www.nz.emb-japan.go.jp/culture_education/JET.html Tel: +64 4 495 8333 Email: jicc@wl.mofa.go.jp
在シドニー日本国総領事館 Web: www.sydney.au.emb-japan.go.jp/itpr_en/education_JET_current_status.html Tel: +61 2 9250 1000 Email: cginform@sy.mofa.go.jp	在オークランド日本国総領事館 Web: www.auckland.nz.emb-japan.go.jp/itpr_en/jet_programme.html Tel: +64 9 303 4106 Email: info-cul@ac.mofa.go.jp
在ブリスベン日本国総領事館 Web: www.brisbane.au.emb-japan.go.jp/itpr_en/jicc_jet.html Tel: +61 7 3221 5188 Email: culture@bb.mofa.go.jp	在クライストチャーチ領事事務所 Tel: +64 3 366 5680 Email: cultural.chc@wl.mofa.go.jp
在パース日本国総領事館 Web: www.perth.au.emb-japan.go.jp/itpr_en/JET_Programme.html Tel: +61 8 9480 1800 Email: info@pt.mofa.go.jp	一般財団法人自治体国際化協会シドニー事務所(クレアシドニー) Web: www.jlgc.org.au/our-activities/jet-programme/ Tel: +61 2 9241 5033 Email: mailbox@jlgc.org.au
在メルボルン日本国総領事館 Web: www.melbourne.au.emb-japan.go.jp/itpr_en/jetprogramme.html Tel: +61 3 9679 4510 Email: meljapan@mb.mofa.go.jp	参加者の募集・選考は、各国の日本国大使館・総領事館等が実施しています。 応募や選考スケジュール等の詳細については、各国の日本国大使館等にお問い合わせください。

一般財団法人 自治体国際化協会シドニー事務所 (CLAIR, Sydney) 発行



この冊子は、2011年から2012年の間にJETプログラムに参加し、和歌山県の湯浅町でALTを務めたJETプログラム経験者のキャロライン・ポーブ氏によってデザインされました。

2021年3月